

村上先生のお話を聞いて 体力をつくる環境

横浜愛隣幼稚園 五十嵐 藍子

「今どきの子どもたちの体力」と聞いて思い浮かぶことは「低下」という言葉でした。学生時代、様々な場所であることを聞いていたからです。実際、保育者として子どもたちと接するようになってから園庭で転んだ時、咄嗟に手が出ず顔を怪我する子どもを見たことがありません。しかし、水鬼と一緒にやっていると子どもたちはなかなか素早いのです。急に角度を変えて鬼を振り切ります。それは水鬼で遊ぶ中で必要な力だから身についたのではないかと思います。使う機会があるから自然に身に着く；そんなふうにして子どもたちは遊びの中で様々な力をつけていくのだと思います。

村上先生のお話では「人間は環境でつくられる」という言葉が印象に残りました。先程の例のように、やりたいと思える環境が整っている中で身体を動かす機会があれば自然と身体を動かす力がついていきます。そのためには私たち保育者が環境を整える必要があります。お話の中で昔の子どもの遊びについても触れていますが、今は身体を動かす遊びが自然発生することが少なくなっています。私たちが子どもの「やりたい！」という気持ちを引き出し、十分に遊べる環境を整えることで子どもたちは思い切り身体を動かすことができるのではないのでしょうか。また、「命を守る力」という言葉も印象に残っています。自分の命を守る力(自律神経、内分泌系の動き、免疫系の動き)を高めるためには運動が必要ということでした。私たちの環境づくりは子どもの体力、子どもたちの命を守ることに繋がるのだと思いました。

役員会報告

書記 奈良昌人

役員会は九月十五日(木)、十一月十七日(木)、十二月七日(水)クリスマス礼拝後に開催されました。主なことを報告いたします。

◆夏期講習会を終えて：八月二三日火開東学院大学室の木キャンパス4号館、5号館にて、講師として聖和短期大学キリスト教教育・保育研究センター長の小見のぞみ先生をお招きし、三四園、会友一人、二六六人が参加し開催されました。礼拝と講演会の全てを小見のぞみ先生が御奉仕くださり、開会礼拝では「タネ君」のお話からのメッセージ、講演では「キリスト教保育の魅力」というテーマでお話いただきました。午後よりの経験年別小グループによる分科会でも、小見のぞみ先生が各グループを訪ねてくださり、キリスト教保育について語り合い、思いを深くすることができました。開会礼拝の後には勤続十周年以上の十人の先生方への永年勤続表彰が行われました。

◆園長・設置者・主任研修会

九月十九日(月)に、鶴沼めぐみルーテル幼稚園を会場に、NPO法人 保育の安全研究きゅいくセンター健康心理学博士 掛札逸美先生より「命を守るために 保育施設における危機管理」についてお話を伺い、良き学びと交わりの時を持つことができました。

◆第二回講演会は十一月九日(水)野毛山キリストの教会礼拝堂にて東洋英和女学院大学人間科学部 保育子ども学科教授の村上哲朗先生をお招きし、「大人になっていく子どもの心と体のこと、体を動かす環境の考え方」のテーマでお話を伺い、幼児が心身共に健全に成長するための環境づくりについてお話しました。

長するための人とももの環境づくりの大切さを改めて示され、自分の保育を振り返る良い機会となりました。二三人が参加しました。

◆クリスマス礼拝は十二月七日(水)清水ヶ丘教会にて、学校法人 敬愛学園 元住吉こぼと幼稚園理事長 日本基督教団 元住吉教会 牧師の三宅宣幸先生よりクリスマスメッセージをいただき、その後、野毛山幼稚園と東洋英和女学院付属かえで幼稚園の皆さんのリードにより楽しいクリスマスソングの一刻を過ごし、恵みのうちにクリスマス喜びを分かち合いました。各園からのクリスマス献金二四万九千八百八十五円は国境なき医師団、連盟の被災地支援、NCC日本キリスト教協議会、横浜訓育学院に渡しました。

◆保育環境研修会と全体主任会

二〇一七年二月八日(水)午後三時～五時に保育環境研修会、午後五時～六時に全体主任会が、ひかりの子幼稚園にて行なわれます。

神奈川部会創立五十周年記念会

日程と会場：二〇一七年八月二十二日(火)午後一時より、横浜迎賓館にて行われます。プログラムは、礼拝、記念講演会、五十周年記念式典、コンサート、会食を予定しています。四月になりましたら詳細をお知らせさせていただきますので、皆さんご予定の上、ご参加くださいますようお願いいたします。

なお、五十周年記念文集を作成いたします。これまでの神奈川部会の歩みの資料(特に創立当時の古い資料等)がございましたら、役員会にお知らせくださいますようお願いいたします。

◇発行日 2017年2月8日

◇編集者 神奈川部会 広報担当
宮の台幼稚園/佐口千春
認定こども園 捜真幼稚園/黒坂綾子

◇デザイン 永野絵理世

◇イラスト提供 百合丘めぐみ幼稚園



編集後記

早いもので、今年度も締めくくりの時を迎えます。いつも、どんな時にも神様の恵みと導きがあったことを感謝せずにはいられません。これからも礼拝を通して、まず私たちが神様に愛され許されている存在であることを喜んでいきましょう。原稿をお寄せくださった全ての先生方に心から感謝申し上げます。

キリスト教保育連盟 神奈川部会 2016年度主題

『平和』をともに

聖句「キリストは
わたしたちの平和であります」
—エフェソ2：14



「み手に導かれて」 ～「先生、ばか」～

鶴沼めぐみルーテル幼稚園
園長 加部 公子

忘れられない思い出があります。私が保育者になって二年目の三学期。年中組の担任として、子どもたちとの日々が楽しいなあと感じながら過ごしていた、ちょうど今頃の季節でした。ある日、先輩の先生が褒めてくださいました。「子どもたちをまとめたり、話をしたりするのが慣れて上手になったわね」。嬉しくて、はりきっていた数日後のことです。クラスの子どもたちに声をかけて、順番に並んでもらっていた時に、ふざける子を諭しながら、「今日はどうしてちゃんと並んでく

◆ 聖句 ◆
「あなたのもとに
わたしを導いてください。
あなたはわたしを
救ってくださる神。
絶えることなく
あなたに望みをおいています。」
(詩編25-5)

れないのだろう」と、焦る気持ちから、大きな声を出していたように思います。先頭にいた女の子、Rちゃんが何かに気づいたかのように、目を輝かせて笑いながら「先生、ばか」と言います。ふざけて言うのとは少し違う様子に、「えっ、どうして？」と訊くと、「みんなを思い通りにしようとするから」。

ガツンと、頭を打たれたような気がしました。そして私は、その子にどんな言葉を返したのでしょうか。保育者としてまだまだ未熟なのに、褒められたからと調子にのって、子どもたちの意のままに動かせるような振る舞いをしていました。また、「ばか」の理由が、あまりに的を射ているというか、当を得ているように思いました。先生が「思い通りにすること」と「指導すること」って、何が違う？「ばかじゃない先生」に、どうしたらなるの？

当時の牧師園長にその話をした時、「ばかじゃないよ、頑張って」などの、なぐさめの言葉を期待したのに、「先生なんてばかなものだよ、Rちゃんはずいねえハハ」と、一笑いされてしまいました。それから、「あなたが悩んでいるのは、Rちゃんと信頼関係でしょう」と。

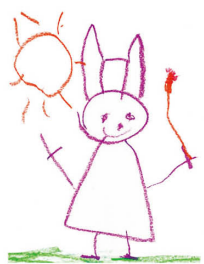
これまた、ガツンとききました。そうです。「ばか」と言われた瞬間に、私はRちゃんに嫌われたと思い、そのことが一番ショックだったのです。それから三十年以上。思い返せば当時の私は、子どもたちが「大好き」でしたが、子どもたちを愛し受け入れる力に乏しかったのだと思います。愛もなく、「並びましょう」と、大きな声で言い続ける愚かさに気づかせてくれたRちゃんの手を、私は今も時々思い出します。

時を経て、さまざまな子どもたちや保護者、先生たちとの出会いや経験の中で、今、園の保育のあり方を思うとき、園に集う子どもも大人も、神さまに愛されている者同士が、一緒に祈りながら、緩やかに育ち合うことができたらと願っています。

「思い通りにすること」に精一杯だった私を、ここまで導いてくださった主に信頼しながら。その後、Rちゃんは成長して、米國ボストンの大学で学び、帰国後に結婚。現在は国内の大学で教鞭をとっているそうです。ご実家に帰った折に時々、三人の娘さんを連れて遊びに来てくれることは感謝です。



礼拝の持ち方について



横浜英和幼稚園の礼拝

横浜英和幼稚園

私たちの園の礼拝は、大きく分けて三種類あります。

一つは、毎日担任と子どもたちで行うクラス礼拝。これは、園生活や欠席の友達のことを祈るなど、家庭礼拝に近いものです。

二つ目は、年中長合同の礼拝で、さんびか、司会者の祈り、暗唱聖句、お話し、お祈り、さんびかの順序に従って行います。年少組は十一月頃からこの礼拝に加わります。メッセージは保育者が交代で担当します。また、礼拝後に月の誕生者が前に出て、みんなが「生まれる前から」を歌い、誕生者の祝福をします。

三つ目は保護者も一緒に参加する礼拝で、始業終業、花の日ごとの日、創立記念、感謝祭、クリスマス各礼拝と入園式、卒業式の式典礼拝です。メッセージは、園長、学院宗教主任、学院内の教師や教会の牧師先生が担当します。

この他、クリスマスに向かつては、アドベント礼拝があり、第一は希望保護者参加で宗教主任、第二は園長が担当し、第三はページェントで降誕の出参加で宗教主任、第二は園長が担当し、第三はページェントで降誕の出来事をたどりながらアドベントの時を過ごします。

いずれの礼拝も、子どもたちがお話を聞いてイメージし、登場人物の気持ちを中心に体験し、神様を共に喜ぶことを大切にしていきます。

特別な時間

恵泉幼稚園

園長 大森美保子

子どもたちの園生活は、目を閉じ、静かなピアノの奏楽に五感を研ぎ澄まし、丁寧に賛美歌を歌う子どもたちの清らかな声が神さまを賛美し、一日が始まります。

この礼拝は、キ保連の園では特別なことではないと思いますが、礼拝に込められる思いは各園様々ではないでしょうか。私たちは礼拝を、一日の中で

「特別な時間」と考えています。けれど、礼拝を「特別な時間」として大切にしたいと思いつながら、戸惑いや難しさに直面し、特別な時間の中に流れているものを確かめるようになりました。

創立者、高橋誠一は「幼児教育者は、天地の創造者である神を信じることを使命として生きること」を信念とし、倉橋惣三は著書の中で、「家庭における宗教教育は、真向かいに行われるより、後ろ向きに行われることが望ましい。絶対の愛の前に感謝する親の後ろ姿、それを通して、子どもは絶対の愛を見るのである」と記しています。親を教師に置き換え、二つの精神を中心にして礼拝を考えるようになりました。

礼拝を始める前には、子どもたちが静かな雰囲気の中で賛美にふさわしい態度を整えられるように心を配りますが、心に留めたい事として、園生活すべてが、神さまの香りに包まれ、その中で心置きなく安心して遊ぶ毎日を支える要が礼拝であることに気付きました。

そして何よりも、礼拝に教師が身を置いていることが幸せで、感謝が溢れます。

毎日の礼拝の「特別な時間」は教師にも子どもたちにも、神さまは将来に渡りずりと愛してください

を確信していく時間を運んでくれます。

子どもと共に祈る

YMCA マナ保育園

主任 中井典子

当園は開園から十七年目を迎え、現在七十二名の園児が在籍しております。

朝七時から登園が始まり、異年齢でひと遊びした後、九時になると乳児クラス(0歳、一歳、二歳児)では朝の集いが始まり、保育者と一緒に讃美歌とお祈りを捧げ一日が始まります。一日の安全や休んでいるお友だちを気遣い、感謝と共に神さまのお守りをお願いします。幼児クラス(三歳、四歳、五歳)も朝や帰りの集いの中で、保育者や年長児による言葉で日々祈りのときをもっています。

礼拝は週に一度月曜日に幼児を対象に、牧師先生と園長先生が月に二回、職員は持ち回りでお話しを担当します。また、イースター、花の日、収穫感謝、祝福式、アドベント、クリスマス、誕生会では全園児と礼拝を守っています。

職員にとっては月一回の聖書勉強会に於いて牧師先生の話を聞いたり、自分が話す聖書の箇所のアドバイスを

いただけることが良い学びになっています。そして子どもたちの『今日の礼拝はどんなお話かな?』と期待に満ちたまなざしの中で、子どもたちと一緒に祈る穏やかな時間が保育者にとっても新しい一日、一週間の始まりにかけがえない時間(とき)となっていると思います。

礼拝を通して、「神さまは私たち一人ひとりを愛してくださっていること」「いつも私たちの隣にいて守ってくださっていること」を伝え、自分も友だちも、大人も「大切にされる存在」、「愛される存在」であることに感謝し、子どもたちと共に祈りたいと思います。



礼拝の持ち方について

戸塚ルーテル教会付属幼稚園

主任 石黒晶子

部会五十周年とルター宗教改革五百年の二〇一七年に、キリスト教保育を基に励んでおられる方々と基本となる礼拝について考える機会が与えられ感謝です。本園は教会付属の園として(来年度は施設型に移行です)。六八年目を迎えます。園児の減少で保育など変化がある中で、唯一変わらない

のが園児礼拝です。毎週原則水曜日、年長児と年中児は制服で、年少児は心を整えて長椅子に座ります。前奏の中、アコライトの当番(年長)1名が白ガウンを着て講壇上の2本のろうそくに点火して始まります。讃美歌2曲、メッセージは主に園長が担当し、暗唱聖句はキ保の聖句と主の祈りをし、後奏中、アコライトの当番が火を消して終わります。二十分程ですが、途中入園の満3歳児も出席します。月一度は誕生会の礼拝で通常の礼拝に誕生児一人ひとりの祝福と献金が加わり、その一部を支援として捧げています。その他イースターや感謝祭、クリスマス等、様々な行事も礼拝や祈りから始まり祈りで終わります。日々の繰り返しの中で各園でも形式や持ち方は違っていますが、礼拝は園生活の要になっている事でしょう。旧約聖書に「子どもたちにこのようにせよ」という中で聞かれたら主を礼拝するとは、又、礼拝している神はこういふ神だと知らせよとあります。危険や安全のため様々な制約のある保育の中で子ども一人ひとりの環境と生活に息づく確かな主の恵みを感じ、守られ支えられる神に委ね祈りつつ、受け継がれてきたキリスト教保育を安心して受け継いでいきたいものです。日々新たにされて...

讚美の礼拝を幼児と共に

二本榎幼稚園

川又喜恵子

1913年神奈川バプテスト教会が神奈川の地に、伝道と当時としては数少ない幼児教育を開始しました。1945年横浜大空襲により全焼いたしました。1946年地域の要望にこたえて設立され、現在に至るまで、幼児の賛美の歌声が園庭に響く園の歩みが教会の伝道と共に継続されています。入園するまでは、キリスト教とあまり関わりがなかった家庭で育った子どもたちがほとんどですが、2月の入園準備会で初めて賛美歌を在園児と共に歌い、祈りをささげます。『小さい命が土の中 外の寒さにまけないで 虫も蛙も待っている 春がくるのを待っている 神様命をつくられるハレルヤ ハレルヤ』(子どもさんびかII)は神様の守りの中で春を待つ虫や球根を想像し子どもたち自身も神さまの守りの中で生きていることを、『ひとりひとりの名を呼んで、愛してください。イエスさま、どんなに小さな私でも、おぼえてください。イエスさま』(幼児さんびかII)のように救い主イエスさまが子どもたちひとり一人を愛してください

いることを信じて、『神さまにお祈りしましょう。嬉しい時も悲しい時もイエスさまのみ名によって。アーメン』(幼児さんびかII)を歌い、手を組んで祈る初めての礼拝を賛美歌に導かれていたようです。入園式、誕生日会、運動会、生活発表会、卒園式等、賛美と祈りを、参加するご父兄も共に、心をあわせてすることにより、神様の祝福をいただくことができるのではないのでしょうか。キリスト教の教会歴に従って園の生活が導かれています。毎日の園生活の中では、礼拝はクラスごとに賛美と祈りを朝の集まりの中でいたし、日曜礼拝は、毎月第二第四の聖日、幼稚園だけで教会歴に従った内容の聖話を聴き、三歳児、四歳児、五歳児が一緒に賛美し、楽しい時をすごします。毎週水曜日には、年中組は、『聖書物語』(福音館出版 レギーネ・シュトラウ作)より旧約聖書、年長組は新約聖書の絵を見せていただきながら牧師先生よりお話を聴き、賛美歌を歌い、祈り、礼拝をいたしています。

